

JICA地球ひろば主催（後援：日本国際理解教育学会）
国際理解教育／開発教育指導者研修

2020.8.9.

ねらいを定める 学習指導案の骨子を組み立てる

帝京大学 中山京子



① ねらいを定める

- 国際理解／開発教育の視点からのねらいと、教科目標のねらいとの統合
- 従来の既存単元の目標と、構想する単元の目標の統合
- 新規構想単元の場合、教科との関連を意識しているか
- 「単元のねらい」「各フレーズ（次）のねらい」「各時のねらい」の整合性がとれているか

② 学習指導案の骨子を組み立てる

<重視したい場面はどこか>

- 知識獲得 資料分析 葛藤・痛みなどの共感
 体験や経験 相互啓発 表現・発信
 その他
- 通常の教科や授業との違いや特性はどこになるのか
 (内容？授業スタイル？)

③ 学習指導案の骨子を組み立てる



<学習者の切実性>

- 学習者（児童生徒）にとって切実性が感じられるか
- 教師の想いが学習者と乖離していないか
- 学習者の思考や発言を中心に指導案をかくことができるか

④ 授業の汎用性

<汎用性>

- その授業は汎用性の高いものか、その児童生徒との1度きりの特別な授業か。
- 将来的に再度使える教材であるか、他の人が類似した授業をすることができるか、他の教員が自分のクラスでもできるものか。
- 本研修で希望する方向性

< 実践への理解 >

- 理解者を増やす、普遍化を図るためには、教科の既存単元と関連づける、学習指導要領と関連づけることが効果的。
- 独自性が強い主張をして倦厭されるよりは、国際理解教育・開発教育への関心を高め、仲間を増やしたい。

< 研究開発的な授業 >

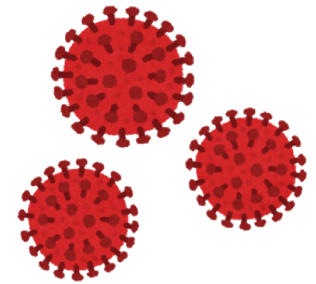
- 研究開発的な授業として設定することが可能ならば教科特性や既存学習単元にあまりこだわらず、自由に、創造的に。
- 共有できる視点を抽出して提示

アウトプットのイメージをもつ

- ○月に授業をする
- 校内研修などで発表
- 市区町村の研究会などで発表
- 研究冊子に実践を報告する
- 1月上旬に報告をしあげる
- 2月6日、7日の研修での発表
- 学会発表をする
- 学会の紀要に投稿する



新型コロナウイルスが蔓延する中で



- 予測不能な社会をどう生きるか
- 自ら社会を守ろうとする感覚
- 自分の現実に行き起こっていることは地域社会だけでなく、世界につながっているという感覚

- 世界中で新たに向き合う模索と挑戦